

鈴鹿市立天栄中学校 第4回学校運営協議会 報告書

1 日時 令和6年11月14日（木）午前9：00～11：30

2 場所 天栄中学校被服室（参観は各教室）

3 委員長あいさつ

＊駐車場不足の問題について昨年度から市教委に働き掛けている。

＊教室に、合唱の歌い方のポイントを書いた掲示が貼られていた。子どもたちが楽しく盛り上げようとしていた。

＊今回の会議で共有したことを、先生方に持って帰ってもらえるとよい。

4 授業参観

＊各学年担当職員が同行し、授業を参観した。

5 授業参観について（感想・質疑応答概要）

＊グループで活発に。年々よくなっていると感じる。非常に良い雰囲気である。

パソコンを使用することに対し机は小さい。全市的に机の大きさ等の改善が必要ではないか。スペースの狭さが気になった。

＊タブレットで説明を作成し、自分で説明する姿が見られた。それはそれでよいが、入力と、手で書くのでは、脳を使う量が違う。入力は手書きよりも少ないといわれる。時間を掛けて上手く作ったと言っても、頭の中に記憶として残るかどうかは心配。本を読むのも、紙で読むのと電子媒体で読むのでは違う。紙は質感、重さ、全体像等がある。デジタル活用の際に気を付ける必要がある。

＊グループ授業は1～3年生でやっていた。学びの3ルールの狙いがあると感じた。3年生欠席者クラス3～4名いるのが気になった。できるだけ休みが少なくなるとよい。

＊パソコンを使っているが、苦手な子、入力の速さが遅い子はいないか。

A 入学当初は遅い、苦手、という生徒も。だんだんと慣れてくる。書くことそのものが苦手な子も。だんだんと、パソコンなら思いを出しやすくなる子も。

＊変換できずに止まっている子もいた。国語力が必要である。漢字の読みだけはわかるようにする必要があるのではないか。

A 子供たちからも「漢字やりたくないよ」という声上がる。漢字ノートの取り組みも大切である。

＊知らない熟語でも、なんとなく意味がわかる場合もある。同音異義語をどれだけ処理できるか。友達の名前の漢字を入力するのも面白いのではないか。相当ハードルが高い課題になる。

＊子供の名前は、変換が難しくなっている。ITが教育を支援していると言うが、どこまでが「支援」なのか。「支援」であって本筋ではない面もある。紙とITは異なる。IT、紙のメリットを上手く使い分けられるとよい。今後、もっと習熟してくるとよい。どのように使い分けるかを念頭に置きながらやっていくとよい。世界の変化もあり、難しい問題で

あるが。また、机が小さいので、もう少し何とかならないか。グループの学び合いが定着している。昔ながらの授業を行っている人はほとんどいない。私見だが、授業として成り立っているのかという疑問もある。

*グループ別授業が多かったが、昨年よりも子どもたちがさっと取り組めていた。パソコン入力は早くできても、漢字テストをすると「この子も？」という生徒が書けていない。書く力を身に着ける必要がある。生徒の成長を支えてもらっていると感じた。

*昔風の授業は、教師が黒板にずっと書いては消し、生徒は写すだったが、今はグループでの学び合いの授業に変わっている。時代の変化だと感じた。パソコン入力の習熟は社会に出るときに必須である。一方、漢字を書くことが難しくなっているの、どのように指導しているのか。英語「ニューホライズン」は自分の頃から使っている。

*数学で、グループで補助線のことを質問し、ああそうか！と解決できている場面もあれば、活動が止まっているグループもあった。その時に、子どもたちはどのような状況か。素晴らしい活動をしているグループもあるが、停滞しているグループがあるときに、教師の支援がくるまでの時間がもったいない。わからないなりに、わからなさを出し合えたら良い。わからなさを出すことにより、わからないことがはっきりとする。わかっていくのはすごく面白い。中学校での学習は、その内容。あきらめない、という姿勢をみんなで持っていけると良い。

A 体育科でも、グループで作戦を立てることがあるが、停滞するグループもある。支援しても難しいときは、他のグループに訊きに行くことで疑問を共有できると解決できることもある。ICTを活用できることで解決することもある。

*他のグループに訊きに行く時に、「スパイ」と名付けるのであれば、胸を張っていける。ネーミングが良い。

A 訊きに行く時のマナー・ルールを与えて、守るように指導している。

6 拡大学校運営協議会の振り返り

*講演後にグループ協議が行われた。司会・記録を決めて運営したが、担当者は意見を言う余裕がない。学校側が入って、参加者はできるだけ意見を自由に言えるほうが良い。協議後、全体で発表するのは負担が多い。

*ひと班の人数が多いほうが良い。班の数が少ないほうが良い。

*教師は授業があるので 市教委が入れないか。

*学校側として「地域の意見を吸収する場」の面に重点を置くと良い。

*協議に時間が掛かるので、講演をなくして協議に時間を割くほうが良い。

*時間の割り振りを考えるとよい。

*メンバー分けを工夫すると良い。例えば合川小と天名小など、お互いの困り感を出し合える時間を確保してほしい。同じスタンスで話し合える時間も必要である。

*意見が多く出ている。異なる意見、同じ意見それぞれに大切である。

*小学校再編が目の前である。義務教育学校のこともある。話すことがリアルに見えてくる。お互いの状況など、深い話にしていっても良い。

*話を聞いてまとめるのが精いっぱい、ではなく、話を深めるほうが良い。

- *市教委のメンバーが変わっていくなかで、地域には継続的にかかわっているメンバーがいることを考えると、話し合いに時間を割くと良い。
- *4グループにまとめて、記録等に校長が入ると良い。市教委がサポートを。
- *地域の生の声を聴いたことのある者が、統合や義務教育学校の課題にかかわってもらえるほうが良い。
- *協議をしてまとめているが何か変わっていくのか。支援課は何かしてもらえるのか。
- *市教委が入ったほうが良いのではないか。生の声を聴いたほうが良い。
- A 学校として改善につなげなければならない部分は改善していく。
- *働き方改革、不登校等、学校だけでは解決できないものもある。
- *合併前に、天栄中校区で先行して取り組んでほしい。
- *色々と話し合っているが、今後が見えてこないことにフラストレーションがある。

7 報告・協議事項

(1) 学校の様子について（各学年担当より）

1年担当職員

- *小学校から入学してくるので、まずは慣れることを大切に取り組んだ。小さな学校から集まるので、どのような支援が必要かを考えている。
- *集団宿泊学習では、買い出しやクラス出し物を行った。授業ではできない体験を取り入れた。
- *「クラス」ができていて、欠席者も少ない。取組の効果が出ている。
- *支援が必要な生徒が多い。車いすの生徒も一緒に取り組める取組を続けている。
- 仲間づくりがすすんできている。

2年担当職員

- *授業を通じて仲間づくりを進めている。「わからない」が言えることが素晴らしいという指導を繰り返している。その結果、4人グループでも6人グループでも、誰が誰とでも、どんな班になっても関係性、つながりができてきた。
- *文化祭も2回目となり、合唱コンクールでは、どのクラスも「優勝したい」という気持ちが見られた。昨年度の取組を踏まえて、子どもたちから「ほかのクラスと練習試合（聴き合い）をしたい」という意見が出され、取り入れた。また、伴奏者が欠席してアカペラで演奏したクラスの取組を認める姿が見られた。温かい学年である。
- *職業体験学習では、純粋に受け止めてしっかりと取り組んでいた。事業所からも好評価をいただいた。
- *2年生らしい姿になってきている。今後、部活動・学校生活の中心になってほしい。

3年担当職員

- *パワー・元気のある学年である。休み時間や授業での元気が特徴である。半面、言い過ぎたり、メリハリ・切り替えができていなかったりする面もある。

*副担任が「学年評議会」を担当し、学年・各クラスの課題を全体で良くしていこう、メリハリを付けて学校生活を送れるようにしていこうと取り組んでいる。

*文化祭では、最高学年として気合が入った取組が見られた。歌詞を模造紙に書きたいという生徒が出てくれ、放課後残って書いてくれた。鈴鹿市音楽祭に出場できる2クラスに選ばれるために全クラス取り組み、途中ぶつかり合うことも多かったが、最終的には良い歌に仕上がっていた。下級生にも良い姿を見せてくれた。

*進路説明会では、スケジュールや受験方法について説明を受けた。生徒も、すぐ近くまで受験が迫っていると実感した。

*受験に向けては、休み時間ワークを開き教え合う姿も見られるようになった。教室に入っていない子も、別室（校内教育支援教室）で勉強を頑張る姿や、進路を前向きに考える姿が見られるようになってきた。引き続き声掛けし、全員が進路を決めることができるように支援していきたい。

《質疑応答》

*2月から配膳員をしている。自分が係でなかったら声を掛けていないのか？と感じるほど返却が遅いクラスが見られるが、どうか。

A1 準備・片付けは課題である。子どもから「先生が課題をいろいろ言いすぎ」と指摘された。課題をしばって取り組んでいる。係がまず仕事をする。しかし周りも協力するよう指導している。黙食（＝集中）で時間に間に合ったので、子どもからの提案で木曜日を「黙食デー」した。ただ単に「早く食べなさい」でない取組を行っている。

A2 学級経営で悩んでいる。給食は食べる速さも違う。給食後も5分残って食べている生徒もいる。「全員で」と言っているが、遅い子の食べる権利を奪うのもどうかと悩んでいる。サポートの子の昼休みも確保したい。システムができてきたので、これからのことを考えるきっかけにしたい。

*今は入学前に、小学校間の交流をしているが、少人数ゆえに、打ち解けないとか、入学当初はみんなの輪に溶け込みにくい雰囲気はあるか。その後どうなっているか。

A まだ雰囲気に慣れないという子もいる。やりとり帳に書いてくれる子もいる。賑やかな雰囲気に慣れない子もいて、ストレスに感じている。教師が指導した時、教師がいるときは配慮ができるが、教師がいない時にはできなかった。そこで、その子の文章を、本人の了解を取って見せ、クラスに投げ掛けた。なぜ静かにしなければならないのか、その子が学校に来れなくなったらどうするのか、について問い掛けた。このことにより、子どもたちの考えが変化した。

*中学校は1クラスの人数が、合川、天名の倍以上である。

*人を思いやり、想像・配慮までいけば、自分たちなりに解決できるのではないか。

A 1年生は優しい子が多いので、今がチャンスだと捉えている。

※ 質疑応答後、文化祭合唱コンクール最優秀賞3年C組の動画を視聴した。

(2) 教育活動について（学校長）

*別紙予定について報告がなされた。

(3) 学調およびみえスタディ・チェックの結果について（学校長）

学校長より、別紙資料により概要・分析を報告した。

＊資料・グラフ・データから情報を活用して課題を解決する問題が弱点である。

ICT, 情報をまだまだ活用しきれていない。活用の仕方を学ぶ必要性がある。

＊問題をしっかりと読めば解けるものもあった。

＊無回答は少ない。

＊改善点について…協同的な学びを大切にしていく。

「だれ一人取り残さない」ことを、教職員がしっかりと念頭に置いて取り組んでいく。

「困った」が言える安心感、「思い」を聴き合える信頼感を大切に授業づくりを進める。

例) 困り感を教師がつないで全体に広げるファシリテーション、ICT 活用での困り感の共有

＊11月に県教委を招聘した研修を実施し、ファシリテーション・スキルを学ぶ。

(4) 非認知能力の育成

学校長より、生徒アンケート結果から分析した概要（推移、市平均との比較）を説明した。

＊最も上がったのが「授業中に自分の考えを～」への肯定的回答の割合である。

＊「地域とのかかわりを大切にしたい」への肯定的回答の割合が高いのは、小学校からの取組の成果であると捉えている。

8 教育支援課CSコーディネーターより

＊2時間熱心な熟議に感謝したい。

＊授業参観は、教師と参観者の双方にとって良かった。直接教師とやりとりができる場となった。

＊学校運営協議会への参加教員は、毎回メンバーが変わる。このことにより、現場の生の声がわかる。子どもを見守っていく場となった。

＊話し合うことで課題が見えてきた。 例) パソコンの活用、学び合い

＊パソコン活用については、「鉛筆」「文房具」となるようにしたい。

どのように活用していけば、子どもたちの力になるのかが大切である。

＊学び合いでは、子どもたちの「つながり」を大切にしながら、「わからない」を出し合えるように取り組んでいる。

＊拡大学校運営協議会の振り返りについては、市教委としても持ち帰って、来年度に向けて改善していく。意見を「出して終わり」の会にならないよう、学校と協議していく。

＊非認知能力については、年度末の学校関係者評価で触れてほしい。

＊コミュニティスクール意識調査は、教育振興基本計画改定に伴い、質問項目を改定した。

9 その他

＊次回 第5回学校運営協議会 日時 令和7年2月7日（木）16：00

場所 天栄中学校被服室